

# 福祉生活病院常任委員会資料

(平成24年2月21日)

## 【件名】

- 1 とっとり若者自立応援プラン（仮称）（H24年～H26年）の策定状況について  
（青少年・家庭課）…………… 1
- 2 地域医療資源将来予測の概要について  
（医療政策課）…………… 3
- 3 県内の病院医師の充足数及び医師奨学金の貸付状況について  
（医療政策課）…………… 6

福祉保健部

# とっとり若者自立応援プラン（仮称）（H24年～H26年）の策定状況について （みんなで支える若者の巣立ち！）

平成24年2月21日  
青少年・家庭課

「子ども・若者育成支援推進法」に基づき、県内の子ども・若者育成支援についての方針を定める「とっとり若者自立応援プラン」（子ども・若者計画）の策定にあたっては、鳥取県青少年問題協議会「子ども・若者計画」検討専門部会等を開催し、下記のとおり策定作業を進めているところであり、その状況を報告いたします。

今後、県民の皆様から広く意見を聞くため、パブリックコメントを実施する予定です。

## 1 策定の根拠

「子ども・若者育成支援推進法」（平成22年4月1日施行）第9条  
（都道府県計画の策定が努力義務として規定。）

## 2 計画案策定の経過

- ①平成23年6月1日 鳥取県青少年問題協議会に「子ども・若者計画」検討専門部会を設置。
  - ②平成23年7月1日を基準日として「鳥取県青少年育成意識調査（5年毎実施）」を実施  
対象：小2、小5、中2、高2、保護者、青年（19～29才）から3,800件の調査票を回収
  - ③検討専門部会開催（3回）
  - ④関係機関への照会
- 素案作成

## 3 計画の内容

平成23年7月の組織改正により、青少年施策が子育て王国推進局に移管。子育て支援を青少年施策を含め総合的に実施する体制が整備されたところ。

⇒ 子育て王国とっとりプランとの整合を図り、一体となった計画とするため

- ① 子育て王国とっとりプランに記述のない若者の経済的・社会的自立
- ② 子ども若者育成支援推進法が特に重きを置いている「困難な状況（ニート、ひきこもり、不登校、非行等）にある子ども・若者・家族への支援について記述する。

計画の対象、内容を計画名に反映するため「とっとり若者自立応援プラン」とする。

## 4 計画期間 平成24年度～26年度

## 5 今後のスケジュール

- ①平成24年2月21日 常任委員会に計画案報告  
～3月中旬 パブリックコメントの実施
- ②平成24年3月下旬 計画策定専門部会及び青少年問題協議会での検討
- ③平成24年3月下旬 プランの決定

## 6 計画の基本的な考え方

鳥取県における若者の自立、困難を抱える子ども若者の状況について、国調査、鳥取県青少年育成意識調査、県内相談窓口機関からの意見等に基づき現状・課題を整理し、取組の方向性を定めるもの。

## 若者の経済的自立

### 【現状・課題】

- ・ 中学校、高校、大学卒業後3年以内の離職率が全国平均を上回っている。
- ・ 県内の青年の半数以上が人付き合いが不器用だと悩み、青年の4割は就職するにあたって、「職場の雰囲気」を重視していることから「人間関係・雰囲気が良い職場」が用意されていることを求めているが、企業は若者に自ら良好な人間関係の構築ができるよう「コミュニケーション能力の向上」を求めている。
- ・ 働くことについてイメージされていない、職業意識の曖昧な若者が多い。

### 【取組方針】

- ⇒ 就職のための知識能力はもとより、社会人としてコミュニケーション能力やしっかりとした職業観を身につけることによって、経済的自立のできるたくましい青少年の育成が必要である。

## 若者の社会的自立

### 【現状・課題】

- ・ 本県の若者は、若いときには様々な経験をするのが大切と考えている一方で、地域活動に参加した割合は半数、サークル活動に参加し、積極的に活動している若者は2割。
- ・ 社会活動、ボランティアへの関心は青年期になると低下する傾向にある。

### 【取組方針】

- ⇒ 芸術、スポーツなど様々な分野で若者が伸び伸びとチャレンジできる環境の整備や、ボランティア等に参加しやすい環境の整備を図ることにより、様々な経験を積んだ社会的自立のできるたくましい青少年の育成が必要である。

## 困難な状況からの自立

### 【現状・課題】

- ・ ニート、引きこもり状態の者の県内推計（国調査）人口は、各々3200人、2800人、小中高の不登校児童生徒は900人弱、高校中退者は300人弱など多くの子ども・若者が困難な状況にあるが、相談件数等から見て必要な支援が十分届いていない状況。

### 【取組方針】

- ⇒ 支援窓口の連携を強め、困難な状況にある青少年の実態の把握やニーズの把握に努めるとともに、本人や家族に支援窓口の情報を届ける工夫や支援の質の向上を図り、頼りにされる相談機関を目指します。

## 7 来年度計画対応の新規取組等

### 【若者の経済的、社会的自立の支援】

(様々な活動への参加による伸び伸びとした人材育成、コミュニケーション能力の向上)

- ・ ボランティア・市民活動推進事業
- ・ 地域のおじさん・おばさん運動（鳥取県青少年育成県民会議事業）
- ・ アクティブスポーツパーク整備事業
- ・ まんが王国とっとり応援団事業
- ・ 雇用創造1万人プロジェクトの推進

### 【困難な状況からの自立の支援】

(相談窓口の連携強化・質の向上等)

- ・ 若者自立応援ネットワーク会議の運営
- ・ 不登校対策プロジェクト
- ・ 福祉相談窓口での無料職業紹介（福祉保健局の届出内容の変更を4月に実施予定）

# 地域医療資源将来予測の概要について

平成24年2月21日

医療政策課

## 1 将来予測の目的

鳥取県の将来の人口減や高齢化による疾病構造の変化、医師・看護師の不足など医療を取り巻く環境は急速に変化しつつある。本県の医療の現状を分析するとともに、将来の患者の動向、医師数等の地域医療資源の将来予測をし、持続可能な医療提供体制の構築に向けての検討・立案を行う際の参考とする。

## 2 調査の検討経過

基礎的資料収集・加工等は外部委託により行い、医師会、県内医療機関の代表等で構成され本県の医療提供体制等について検討する鳥取県地域医療対策協議会及び関係者の皆様からご意見をいただきながら取りまとめを行った。

(鳥取県地域医療対策協議会)

平成22年10月5日	検討開始
平成23年2月1日	中間報告
平成23年3月1日	中間報告での意見等について報告
平成23年8月2日	最終案について協議
平成24年1月31日	最終調査結果の取りまとめ

## 3 将来予測の項目

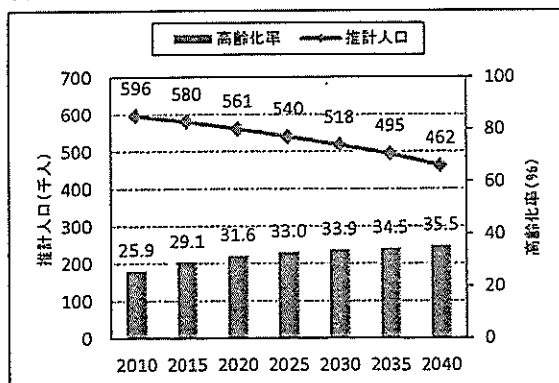
2010年(H22)を起点として、5年後の2015年(H27)、10年後の2020年(H32)、20年後の2030年(H42)、30年後の2040年(H52)の医療資源の需要(必要病床数、必要医師数、必要看護師数)と供給(医師数、看護師数)を推計

## 4 将来推計

○次の2パターンにより推計

①現状投影シナリオ (Aシナリオ)	医療提供体制が現状のまま推移し、平均在院日数等が現状と変わらないという仮定による推計。
②改革シナリオ (Bシナリオ)	現在進みつつある平均在院日数短縮のトレンドを考慮したもので、急性期医療への医療資源の重点投入による医療資源の最適配分と効率化が相当程度進むという仮定による推計

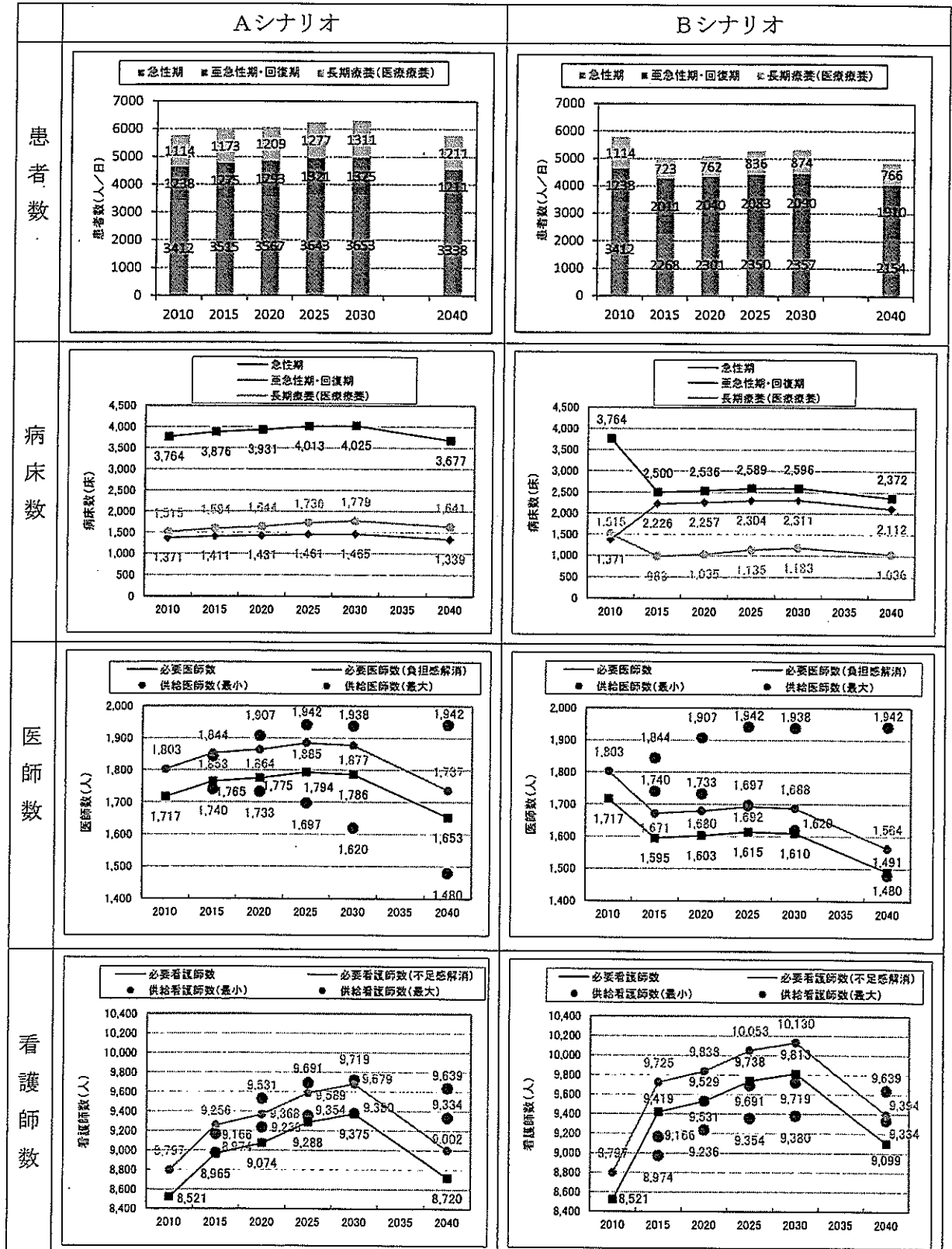
○将来推計人口



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所(2040年は県推計)

## 5 推計結果

- Aシナリオにおいては、人口減少が続くものの高齢化の進展（高齢者は医療機関を受診する割合が高い）により、2030年(H32)までは医療需要が伸び、病床数、医師数、看護師数は現状よりも多く必要とされる。供給面をみると、医師数については低位推計では必要数を将来にわたって大幅に下回るとともに、50歳未満の医師も減少することが予測される。
- Bシナリオにおいては、全ての時期において必要とされる急性期・長期療養の病床数、医師数は現状を下回るが、必要とされる看護師数は現状よりも大幅に上回ることが予測される。



<参考：算出方法>

(1) 医療需要及び必要医療資源の推計

①現状投影シナリオ（Aシナリオ）

項目	推計方法
患者数	推計人口に受療率（医療機関を受診する割合）を乗じた数に、医療圏別の流入の割合を乗じて、1日当たり患者数を推計
病床数	推計患者数の増減に比例して病床数が変動するとして推計
医師数	推計患者数の増減に比例して必要医師数が変動等するとして推計 ※労働負担解消を考慮（時間外労働の縮減）した医師数も合わせて推計
看護師数	推計患者数の増減に比例して必要看護師数が変動等するとして推計 ※不足感解消を考慮（現在の不足数の解消）した看護師数も併せて推計

②改革シナリオ（Bシナリオ）

項目	推計方法
患者数	Aシナリオの1日当たり患者数が、平均在院日数の短縮により急性期から回復期等、回復期から介護施設、在宅等へ移行していくと仮定して算出した数に、医療圏別の流入の割合を乗じて、1日当たり患者数を推計
病床数	推計患者数の増減に比例して病床数が変動するとして推計
医師数	医療資源の集中投入が行われた結果として、急性期、亜急性期、回復期の患者100人当たりの医師数が増加するとして推計 ※労働負担解消を考慮（時間外労働の縮減）した医師数も併せて推計
看護師数	医療資源の集中投入が行われた結果として、急性期、亜急性期、回復期の患者100人当たりの看護職員数が増加するとして推計 ※不足感解消を考慮（現在の不足数の解消）した看護師数も併せて推計

(2) 医療従事者供給推計

①供給医師数の推計

今後見込まれる「新卒医師数」を増加要因とし、その後の就業率及び定年で退職する数を減少要因として推計。

<新卒医師数は、次の2パターンで推計>

推計パターン① (低位推計)	過去5年間（H17～H21年）の実績を参考に、毎年28人とする。
推計パターン② (高位推計)	マッチング率が向上したH22年の実績を参考に、毎年44人とする。

②供給看護師の推計

今後見込まれる「新卒看護師数」と「再就業者数」を増加要因とし、一定割合で発生する退職者数を減少要因として推計。

※新卒看護師数は県内看護学校卒業者の県内就業者及び県外看護学校卒業者の県内就業者の合計数。

<県外看護学校卒業者の県内就業者は、次の2パターンで推計>

推計パターン① (低位推計)	過去4年間（H18～H21年）の実績を参考に、基準を92人とし、18歳人口の推移により変動する。
推計パターン② (高位推計)	H21年の県外看護学校進学者に対する貸付増加割合を参考に、基準を138人とし、18歳人口の推移により変動する。

[取り扱い上の注意]

これらの推計は一定の前提条件を仮定したものであり、例えば平均在院日数の短縮や医療資源の重点投入などは医療費や医療制度の仕組みといった国政レベルでの議論が必要な事柄で必ずこうなるというものではない。現実の事象においては少しの前提条件の変化が結果に大きな変化をもたらすことも大いにありえるため、本将来推計を使用するにあたってはその点に十分な配慮が必要。

# 県内の病院医師の充足数及び医師奨学金の貸付状況について

平成24年2月21日  
医療政策課

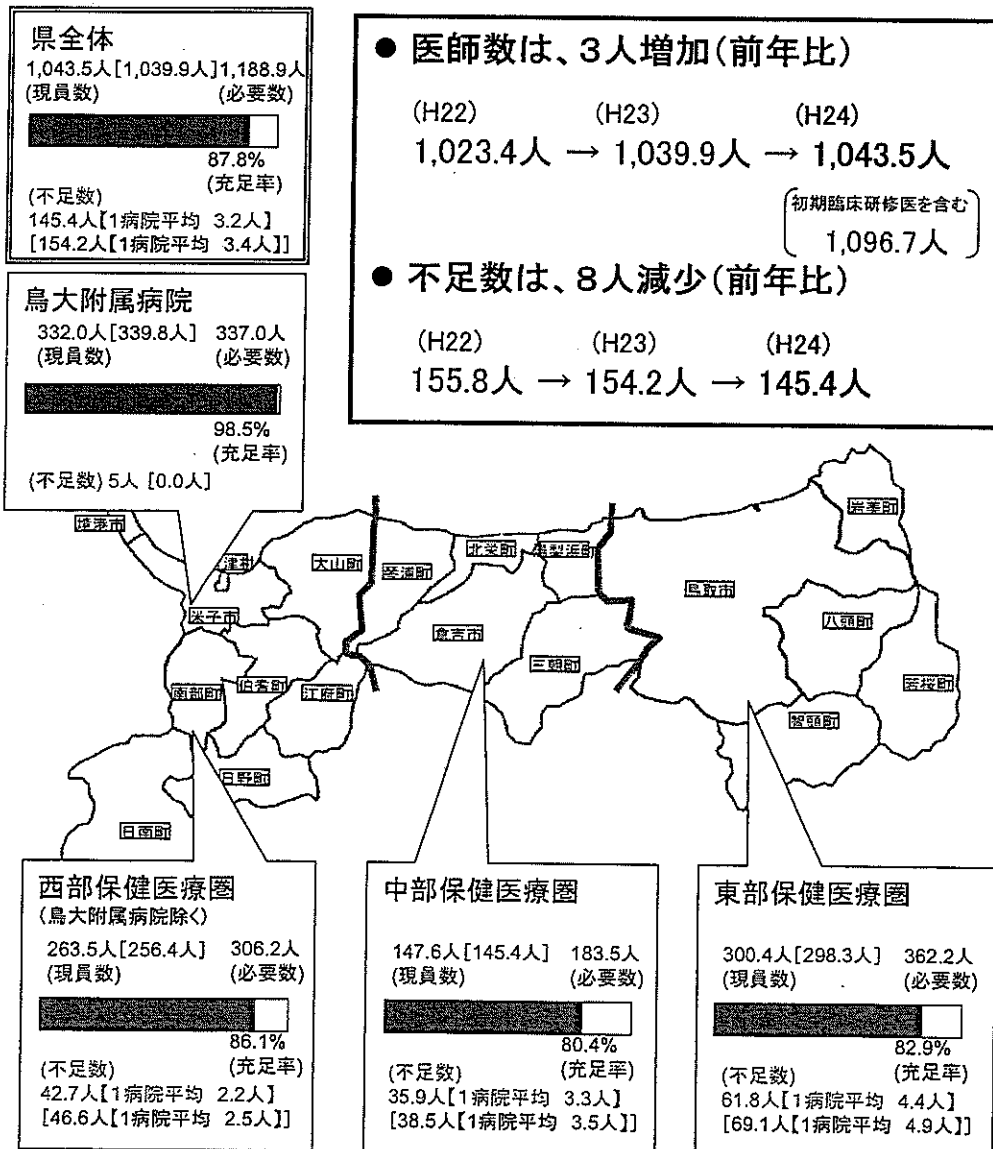
県内各病院における医師数の現状を把握するため、アンケート調査を実施しましたので、その調査結果の概要及び医師養成関係奨学金の貸付状況を報告します。

## 1 調査の概要

- (1) 調査日 平成24年1月1日
- (2) 調査内容 医師数（標榜診療科別、必要数、現員数及びその常勤・非常勤の内訳）
- (3) 調査施設 45病院（回答率100%）

## 2 結果の概要

### 鳥取県の圏域別の医師の充足数(病院)



資料:平成24年1月1日現在「医師数に関する調査」(医療政策課調べ)

(注1)必要数は、現行の診療体制を基本とした上で、それぞれの病院が平成24年4月1日に必要としている数。  
(注2)現員数は平成24年1月1日現在の数で、初期臨床研修医を除いている。  
(注3)[ ]内は前年数値。

医師の必要数と現員数(二次保健医療圏・診療科別)

(単位:人)

診療科	東部保健医療圏								中部保健医療圏								西部保健医療圏(鳥大除く)								鳥大附属病院								合計													
	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ①-②	充足率 ②/①																
		②	うち常勤医師				②	うち常勤医師				②	うち常勤医師				②	うち常勤医師				②	うち常勤医師				②	うち常勤医師			②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師	②	うち常勤医師
			うち女性医師					うち女性医師					うち女性医師					うち女性医師					うち女性医師					うち女性医師				うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師		うち女性医師
内科	70.3	54.3	46	10	16.0	77.2%	49.6	45.6	32	5	4.0	91.9%	49.5	45.3	36	9	4.2	91.5%	3.0	3.0	3	0	0.0	100.0%	172.4	148.2	117	24	24.2	86.0%																
呼吸器内科	6.0	5.5	5	0	0.5	91.7%	3.0	2.0	2	0	1.0	66.7%	8.2	7.6	6	0	0.6	92.7%	21.6	21.6	16	0	0.0	100.0%	38.8	36.7	29	0	2.1	94.6%																
循環器内科 (心臓内科)	12.2	7.2	7	0	5.0	59.0%	7.1	4.4	3	0	2.7	62.0%	11.3	9.4	9	0	1.9	83.2%	28.8	28.8	24	2	0.0	100.0%	59.4	49.8	43	2	9.6	83.8%																
消化器内科 (胃腸内科・腎臓内科)	6.0	6.0	6	0	0.0	100.0%	9.0	6.0	6	1	3.0	66.7%	20.0	17.1	16	2	2.9	85.5%	24.2	24.2	17	3	0.0	100.0%	59.2	53.3	45	6	5.9	90.0%																
神経内科	23.9	17.9	16	4	6.0	74.9%	8.4	6.5	6	2	1.9	77.4%	12.1	8.7	8	2	3.4	71.9%	13.6	13.6	12	1	0.0	100.0%	58.0	46.7	42	9	11.3	80.5%																
その他内科系	9.5	7.5	6	2	2.0	78.9%	2.0	0.0	0	0	2.0	0.0%	6.0	6.0	6	2	0.0	100.0%	6.0	4.0	4	0	2.0	66.7%	23.5	17.5	16	4	6.0	74.5%																
内科系合計	127.9	98.4	86	16	29.5	76.9%	79.1	64.5	49	8	14.6	81.5%	107.1	94.1	81	15	13.0	87.9%	97.2	95.2	76	6	2.0	97.9%	411.3	352.2	292	45	59.1	85.6%																
外科	38.2	37.2	35	1	1.0	97.4%	16.7	13.0	10	0	3.7	77.8%	35.8	32.5	30	1	3.3	90.8%	0.0	0.0	0	0	0.0	—	90.7	82.7	75	2	8.0	91.2%																
心臓血管外科	5.0	5.0	5	1	0.0	100.0%	0.0	0.0	0	0	0.0	—	3.1	3.1	3	1	0.0	100.0%	9.8	9.8	9	1	0.0	100.0%	17.9	17.9	17	3	0.0	100.0%																
消化器外科 (胃腸外科)	0.0	0.0	0	0	0.0	—	8.0	6.0	6	1	2.0	75.0%	2.0	2.0	2	0	0.0	100.0%	18.4	18.4	16	2	0.0	100.0%	28.4	26.4	24	3	2.0	93.0%																
脳神経外科	10.4	8.4	8	0	2.0	80.8%	6.6	6.6	6	0	0.0	100.0%	8.2	5.9	5	0	2.3	72.0%	9.0	9.0	9	1	0.0	100.0%	34.2	29.9	28	1	4.3	87.4%																
整形外科	25.2	18.5	17	0	6.7	73.4%	20.6	16.6	15	1	4.0	80.6%	35.0	29.9	28	1	5.1	85.4%	15.2	15.2	10	0	0.0	100.0%	96.0	80.2	70	2	15.8	83.5%																
その他外科系	3.0	2.0	2	0	1.0	66.7%	2.0	2.0	1	0	0.0	100.0%	5.0	2.2	2	0	2.8	44.0%	9.0	9.0	9	1	0.0	100.0%	19.0	15.2	14	1	3.8	80.0%																
外科系合計	81.8	71.1	67	2	10.7	86.9%	53.9	44.2	38	2	9.7	82.0%	89.1	75.6	70	3	13.5	84.8%	61.4	61.4	53	5	0.0	100.0%	286.2	252.3	228	12	33.9	88.2%																
精神科(心療内科)	33.7	26.4	24	3	7.3	78.3%	14.7	13.9	11	0	0.8	94.6%	26.2	22.0	18	4	4.2	84.0%	13.6	12.6	11	3	1.0	92.6%	88.2	74.9	64	10	13.3	84.9%																
小児科 (脳神経小児科)	24.1	21.3	20	4	2.8	88.4%	5.0	4.0	4	0	1.0	80.0%	17.4	15.8	15	6	1.6	90.8%	33.2	33.2	30	7	0.0	100.0%	79.7	74.3	69	17	5.4	93.2%																
皮膚科	4.9	3.7	3	1	1.2	75.5%	2.3	0.8	0	0	1.5	34.8%	2.1	1.1	1	1	1.0	52.4%	8.8	8.8	8	2	0.0	100.0%	18.1	14.4	12	4	3.7	79.6%																
泌尿器科	9.6	9.6	9	0	0.0	100.0%	6.0	4.3	4	0	1.7	71.7%	10.1	7.3	7	1	2.8	72.3%	9.6	9.6	8	1	0.0	100.0%	35.3	30.8	28	2	4.5	87.3%																
産婦人科 (産科・婦人科)	13.6	13.6	13	2	0.0	100.0%	4.7	3.6	3	1	1.1	76.6%	5.3	3.1	2	1	2.2	58.5%	14.0	14.0	14	2	0.0	100.0%	37.6	34.3	32	6	3.3	91.2%																
眼科	9.1	6.5	6	3	2.6	71.4%	4.5	3.7	3	0	0.8	82.2%	5.5	5.0	3	2	0.5	90.9%	18.0	18.0	15	6	0.0	100.0%	37.1	33.2	27	11	3.9	89.5%																
耳鼻いんこう科	7.7	6.7	5	1	1.0	87.0%	1.2	1.2	1	0	0.0	100.0%	6.4	6.4	5	1	0.0	100.0%	17.0	17.0	13	1	0.0	100.0%	32.3	31.3	24	3	1.0	96.9%																
リハビリテーション科	5.3	4.3	4	0	1.0	81.1%	3.2	1.4	1	0	1.8	43.8%	11.9	10.7	10	1	1.2	89.9%	0.0	0.0	0	0	0.0	—	20.4	16.4	15	1	4.0	80.4%																
放射線科	10.2	9.2	8	0	1.0	90.2%	3.1	2.2	2	0	0.9	71.0%	7.2	6.2	5	1	1.0	86.1%	22.0	22.0	18	1	0.0	100.0%	42.5	39.6	33	2	2.9	93.2%																
麻酔科	17.6	14.6	14	4	3.0	83.0%	5.8	3.8	3	2	2.0	65.5%	12.0	11.4	11	3	0.6	95.0%	18.0	18.0	18	3	0.0	100.0%	53.4	47.8	46	12	5.6	89.5%																
初期臨床研修医	17.2	17.2	6	1	0.0	100.0%	6.0	4.0	1	1	2.0	66.7%	11.0	11.0	11	3	0.0	100.0%	21.0	21.0	21	8	0.0	100.0%	55.2	53.2	39	13	2.0	96.4%																
その他	8.2	7.2	5	0	1.0	87.8%	0.0	0.0	0	0	0.0	—	0.9	0.8	0	0	0.1	88.9%	12.0	10.0	10	1	2.0	83.3%	21.1	18.0	15	1	3.1	85.3%																
医科合計	370.9	309.8	270	37	61.1	83.5%	189.5	151.6	120	14	37.9	80.0%	312.2	270.5	239	42	41.7	86.6%	345.8	340.8	295	46	5.0	98.6%	1,218.4	1,072.7	924	139	145.7	88.0%																
歯科	8.5	7.8	7	1	0.7	91.8%	0.0	0.0	0	0	0.0	—	5.0	4.0	3	1	1.0	80.0%	12.2	12.2	9	2	0.0	100.0%	25.7	24.0	19	4	1.7	93.4%																
合計	379.4	317.6	277	38	61.8	83.7%	189.5	151.6	120	14	37.9	80.0%	317.2	274.5	242	43	42.7	86.5%	358.0	353.0	304	48	5.0	98.6%	1,244.1	1,096.7	943	143	147.4	88.2%																
合計 (初期臨床研修医を除く)	362.2	300.4	271	37	61.8	82.9%	183.5	147.6	119	13	35.9	80.4%	306.2	263.5	231	40	42.7	86.1%	337.0	332.0	283	40	5.0	98.5%	1,188.9	1,043.5	904	130	145.4	87.8%																

※平成24年1月1日現在「医師数に関する調査」(鳥取県医療政策課調べ)



鳥取県医師養成関係奨学金 貸付状況(平成24年2月現在)

【新規貸付の状況】

(人)

奨学金	貸付実績							H24 当初予算
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	貸付者 合計	
医師養成確保奨学金 (鳥大地域枠)	5	5	5	5	5	5	30	5
鳥取県緊急医師確保対策奨学金 (鳥大特別養成枠)				5	5	5	15	5
鳥取県臨時特例医師確保対策奨学金 (鳥大、岡大、山大地域枠(鳥取県))					8	11	19	14
医師養成確保奨学金 (一般枠)		23	5	12	9	6	55	15
合計	5	28	10	22	27	27	119	39

※貸付実績の内24人は貸付終了(現在貸付者95人)

【現在貸付者学年別状況】

(人)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
現在貸付者数	26	23	13	13	10	10	95

【一般枠貸付終了者状況(24人)】

- 初期臨床研修終了…3人(県内勤務)
- 初期臨床研修2年目…5人(県内研修4人、県外研修1人)
- 初期臨床研修1年目…13人(県内研修8人、県外研修5人)
- その他…3人